

ハルサ発電所改修事業（フェーズ 2）完工式の開催

イラクにおいて、有償資金協力によって整備された発電所「ハルサ発電所改修事業（フェーズ 2）」の完工式が、11月3日に開催されました。イラク側からはジアード・ファーデル電力大臣などが出席、日本側からは高木外務大臣政務官、松本在イラク日本国大使館特命全権大使、米田 JICA イラク事務所長らが出席し、「ハルサ発電所改修事業（フェーズ 2）」の完工を祝いました。

同式典において、ジアード・ファーデル電力大臣は、日本の支援により完工できたことを大変喜ばしく思い、本プロジェクトに限らずイラク全土における日本からの支援について感謝の意を述べ、この発電所プロジェクトは、二カ国の強固なパートナーシップの証であり、日本はイラクにとって重要なパートナーであると強調しました。また、高木外務大臣政務官は、我が国の支援がイラクの人々の生活改善に貢献していることに言及しつつ、両国関係者の尽力に敬意を表し、両国の今後のパートナーシップを祝福しました。

ハルサ発電所改修事業（フェーズ 2）は最大出力 80 万キロワット（各 20 万キロワット×4 機）となる同国内の電力供給を担う国内最大級のガス・油焚き火力発電所です。1982 年に日本の支援（円借款と輸出信用）を受けて日本企業によって建設されたもので、戦争中を含めた長年の運営・維持管理は、日本人技術者から学んだイラクの技術者によって行われてきました。30 年以上稼働してきた同発電所は、日本とイラクの象徴的な協力事業として知られています。

本事業はハルサ発電所の 1 号機（定格容量 20 万キロワット）の改修を行うもので、改修の資金には日本政府がイラク政府に供与する円借款（総額 215 億 5,600 万円）が活用されました。

今後、完工した発電所により、電力の安定供給に貢献し、同国の社会開発および復興に不可欠な経済活動を活性化することが期待されます。JICA は、質の高いインフラ整備を通じて、開発途上国の課題解決に貢献していきます。

